

令和6年度
入学者選抜学力試験問題

前期日程

国語

注 意

1. 解答は別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. 文学部志望者はⅠ・Ⅱ・Ⅲを、生活環境学部志望者はⅠ・Ⅱを、解答すること。
3. 文学部志望者は、解答用紙の表紙を含むすべてのページの※印欄に、
生活環境学部志望者は、解答用紙の表紙及び1ページと2ページの※印欄に、
受験番号・氏名を記入すること。
受験番号は、本学受験票の受験番号を記入すること。
※印欄以外の箇所には、受験番号・氏名を絶対に書かないこと。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
5. 総ページ数
問題冊子—11 ページ
(うち白紙—1 ページ)

問 題 訂 正

訂正箇所：10 ページ 大問Ⅲ 本文 右から5行目	
正	誤
献 _{ラント} レ 之 _ヲ 。	献 _{ラント} レ 之 _ヲ 。

I つぎの文章について後の問に答えよ。(文学部・生活環境学部)

1
このような世界になると

に感じていた。

の復権で幕を閉じた。米国は自分たちにとつての「問題」であった
しまったのである。

勢力をイッソウする^A

その後、

さらなる争いを呼び込む。

ロシアは
という「問題」に

という「問題」に対策を
とする。思えば

とは、「問題」

が

では、どうすればよいのだろう。争いという「問題」を生み出すか。

枚挙にいとまがない。

必要があるのではない

「依存」には、とかくネガティブなイメージが付きまとう。

ところが現代の

簡単にカタン^Bしたりす

る可能性も

争いや暴力がカイク^Cの理想郷ではなく、

増えるのではないだろうか。

たやすく権力にカラ^Dめとられ、

てしまう。

³ 争いの道へと走り出す手前で、権力の集中に歯止めをかける方策を考えなくてはならない。

り立ってらるどらういことある。

忘れがちなのは、⁴ どのような自立も「何らかの依存関係の組み合わせ」から成

著作権保護のため本文掲載を省略し、出題箇所の明示のみとします。

このように、
5
なく、依存を嫌い、自立を崇め続けるのだろう。

価格のロウアウで

事実⁵に気づくこと

著作権保護のため本文掲載を省略し、出題箇所の明示のみとします。

至る可能性を左右していることが見えてくる。

依存のネットワークは

争いに

狐——『戦争と平和』の歴史哲学——一九九七年。

今回私が試みたのは、

いわゆる「トルストイの逆説」である（アイザイア・バーリン『ハリネズミと

様々な政治的思惑があることであつた。私に欠けていたのは、まさにスギナとツクシが地下で共有の根をもっているかもしれないという想像力だつた。

「地面の上」だけを見ているのは物事の本質が分からない。

(佐藤仁『争わない社会 「開かれた依存関係」をつくる』による)

問一 傍線部AとEのカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部1「このような世界」とあるが、筆者は現代をどのような世界だととらえているか、端的に答えよ。

問三 傍線部のように、カギ括弧付きで表記されている「問題」の根底には、何があると考えられているか、説明せよ。

問四 傍線部2「現代の「依存」には、とかくネガティブなイメージが付きまとう」とあるが、なぜそのようになると考えられるか、説明せよ。

問五 傍線部3「争いの道へと走り出す手前で、権力の集中に歯止めをかける方策を考えなくてはならない」とあるが、どのようなことが「権力の集中に歯止めをかける方策」として想定されているか、説明せよ。

問六 傍線部4「どのような自立も「何らかの依存関係の組み合わせ」から成り立っている」とはどういうことか、端的に言い換えよ。

問七 傍線部5「依存を嫌い、自立を崇め続ける」とあるが、その理由を説明せよ。

問八 傍線部6「私に欠けていたのは、まさにスギナとツクシが地下で共有の根をもっているかもしれないという想像力だつた」とあるが、この「想像力」は筆者のどのような考え方につながっているか、「スギナとツクシ」が表すものを明らかにして説明せよ。

II つぎの文章は、ある男が友人達と花見に出かけた帰りに、山中の草庵にいた女と和歌をやりとりした時のことを綴った文章である。これについて後の間に答えよ。(文学部・生活環境学部)

きさらぎの二十日あまり、いとうらかなる日に、友とする人、一人二人して、こなたかなたの花、見ありきつつ酒たうべなどして、夕つかた帰りくる山路に、いとほかなげなる草の庵の、竹垣おろそかにしたるが、柴の戸の半ばばかり開きたるを、ゆかしうおぼえて、やをら入りて見るに、障子たてたる簀の子の端つかに、鬘の具などの見ゆるは、尼などの住むにやと思ひて、障子の穴よりさしのぞけば、はたちばかりなる女の、いやしげならぬが、仏の御前のかたに屏風へだてて衣縫ひるたるさま、怪しうはあらず見ゆ。思ひの外なるにうち驚かれて、いかなる人の隠れがにかと、いとゆかしう知らまほしきに、酔ひのまぎれにことよせて、とかくもの言ひ寄れば、なつかしううちいらへつつ隠れもせでるたるは、世馴れたるさまにて、少し心劣りせらるるものから、かかる山中にては、まづいと嬉しき呼子鳥のたつきなり。

やうやう暮れかかる空のけしき、をちこち霞める梢どもの、たとしへなく艶なるに、帰らむ方も知らずなりぬ。誰ばかりにかあらむと、なほいとゆかしきに、とかく思ひめぐらすには、なにがし法師の、女据ゑたる庵このあたりなりと、はやうほの聞きつる、もしそれにやと思ひ寄るままに、「さても、あるじの大徳は、いづこにおはしつるにかあらむ。まことに今日しも、かく、さしはへぬべく契り聞こえさせつるを、厭はしうて隠れ給へるにや。いとつらき御心にもあるかな。霞のまよひもたどたどしく、花の宿りもとらまほしきを、今は空おぼれも由なくこそは」とて、

「山守りも一夜ばかりは許すらむあかぬ桜の花の下臥し

深き御とがめもあらじかし」など言ふに、女うち笑ひて、「様々いと思ひもかけぬ事をもうけたまはり侍るかな。ここにはあるじなど言ふべき人も侍らぬを、所違へし給へるにこそは。かかる賤の女の身にては、

つくづくと色なき宿の花をのみひとり眺めて世をや尽くさむ

となむ思ひ給ふる」と言ふが、さらぬ顔なれど、少しほほをみたるしり目は、たがふべくもあらず見ゆ。「つれなくのたまひ

消つこそねたきわざに侍れ。そは、とまれかくまれ、かくいとおぼつかなき山かげに、ひとり眺め給ふらむよ、いかに御心細くおぼさるらむ。狐・木靈こだまなどやうの物もこそ、みいれまゐらすれ。今宵こよみだに、なにがしら、かくて御とのゐつかうまつりてむ」など言ふほど、いとど暗うなれば、さて長居すべきにもあらで心ならず立ち出づるに、ねぐらを占むる鳥の声々もいとうらやましうぞ聞きなされける。「かの法師に会ひて、いかさまにか言ひおとさまし。いとねたき隠れがにもありけるかな」など、さまざま言ひ語らひつつ、行く行くもかへり見のみせらるるが、いとをかしきに、この友なるなにがし、「へちをしく手をだに触れで帰るかな花のあるじもなきかげに来てあなものの狂ほしや」とて笑ふ。

(中島広足『樞園文集』による)

(注) ○あか關伽の具——仏への供え物を入れる器。

○呼子鳥——人を呼ぶように鳴く鳥。

○さしはへぬべく——わざわざさうしよう。

問一 傍線部 a、c を現代語訳せよ。

問二 二重傍線部 X の「給へ」、傍線部 Y の「給ふる」は、それぞれ誰の誰に対する敬意の表現か、答えよ。

問三 傍線部 1 「少し心劣りせらるる」とあるが、筆者はなぜそのように感じたのか、詳しく説明せよ。

問四 傍線部 2 の歌を、比喻するところを明らかにして解釈せよ。

問五 傍線部 3 について、「いと思ひもかけぬ事」とはどのようなことを指すか、説明せよ。

問六 傍線部 4 の歌をわかりやすく解釈せよ。

問七 傍線部 5 「ねたきわざ」と思ったのはなぜか、詳しく説明せよ。

問八 傍線部 6 を解釈せよ。

問九 波線部について、友人が「あなものの狂ほしや」と笑ったのはなぜか、文章全体を踏まえて詳しく説明せよ。

III

つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。(文学部のみ)

楚人担山雉者。路人問：「何鳥也。」担雉者欺之曰：「鳳凰也。」路

人曰：「我聞有鳳凰，今直見之。汝販之乎。」曰：「然。」則十金弗

与。請加倍，乃与之。将欲献楚王，经宿而鸟死。路人不

与。請加倍，乃与之。将欲献楚王，经宿而鸟死。路人不

欲以献之。遂闻楚王，王感其欲献己，召而厚赐之。過於買鳥

之金二十倍。

(『尹文子』による)

(注) ○路人——通りがかりの人。旅人。 ○経宿——一晚経って。

○不違——時間がない。こゝでは「する間もなく」の意。

- 問一 二重傍線部 A、C の文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。
- 問二 傍線部 1 はどのようなことを言っているか、詳しく説明せよ。
- 問三 傍線部 2 について、主語を補い、「之」が指すものを明らかにして、現代語訳せよ。
- 問四 傍線部 3 はどういうことか、説明せよ。
- 問五 傍線部 4 を漢字ひらがなまじりで書き下せ。
- 問六 傍線部 5 を現代語訳せよ。

出典

科目	大問 番号	著者名	作品名	出版社名	掲載ページ	出版年等
前期日程 国語	I	佐藤仁	争わない社会「開かれた依存関係」をつくる	NHK出版	15—23	2023年5月
	II	中島広足	樞園文集	無し	無し	無し
	III	尹文(撰)	尹文子	臺灣中華書局	大道上、十	1966